

令和6年6月7日（金）令和6年度第1回富山県成長戦略会議 議事要旨

<開催概要>

- 1 開催日時 令和6年6月7日（金）13：00～15：00
- 2 開催場所 県庁4階大会議室、オンライン
- 3 出席者（五十音順）

安宅 和人	慶應義塾大学環境情報学部教授 LINEヤフー株式会社シニアストラテジスト
朝比奈 一郎	青山社中株式会社筆頭代表CEO
齋藤 滋	富山大学学長
高木 新平	株式会社ニューピース代表取締役CEO
中尾 哲雄	富山経済同友会特別顧問
中村 利江	エムスリー株式会社取締役 エムスリーソリューションズ株式会社代表取締役社長
藤井 宏一郎	マカイラ株式会社代表取締役CEO
前田 大介	前田薬品工業株式会社代表取締役社長
藻谷 浩介	株式会社日本総合研究所主席研究員

<議事次第>

- 1 開会
- 2 挨拶
富山県知事 新田 八朗
- 3 議事
 - （1）「人口未来戦略」の検討の進め方
 - （2）今後のスケジュール

1 開会

2 知事挨拶

- ・ご多用のところ、ご出席いただき感謝申し上げます。
- ・本年4月1日現在の富山県の推計の人口は99万9000人となり、76年ぶりに100万人を下回った。今、日本全体が人口減少局面であることから、いつかは100万人を下回るということは予見されており、本県としては特に悲観的になることなく、これを新しく前向きな取り組みを始めるきっかけにしていこうと考えている。
- ・先般、国の人口動態統計も発表された。令和5年の富山県の出生数は、前年より500人減少し、約5,500名となった。これは、平成27年度に策定した富山県人口ビジョンの想定より減少の仕方が早い。また、人口構成も大きく変化していることに問題意識を持っている。そのため、4月22日に私を本部長とし、富山県人口未来構想本部を立ち上げ、県庁を挙げて対策を検討しているところ。昨日もその2回目の会合を行った。
- ・人口減少は、日本に限らず、多くの先進国で見られる状況であり、かつ、なかなか解決ができていない難問。これに対応するため、最新の知見と大胆な発想で、行政と民間が一丸となった取り組みで突破口を見出していければと考えている。
- ・成長戦略会議では、これまでも、関係人口の拡大、そして本県に暮らす人も訪れる人も幸せを実感できる「幸せ人口1000万～ウェルビーグ先進地域、富山～」の実現に向けた戦略を皆さんでご議論いただいていた。今年度は、人口減少が進む中、関係人口の拡大を切り口として、人口減少の緩和についてご議論いただきたい。そして、新しく立ち上げた富山県人口未来構想本部とこの富山県成長戦略会議の間でキャッチボールをするように、行ったり来たりしながら施策を練り上げていければと考えている。

3 議事

(1) 「人口未来戦略」の検討の進め方

(事務局より資料1に基づき説明)

(2) 今後のスケジュール

(事務局より資料2に基づき説明)

【安宅委員】

- 100年以上人口調整局面が続くことを考えると、人口という視点ではない何かが本当はいると思う。僕は長年マーケティングをやってきて、いろいろな商品、事業開発をやってきたが、そこの視点で一番大事なのは人でターゲティングをしないこと。人ではニーズが掴めないことは分かっている、基本的には市場の場面というかニーズセグメントを掴まないといけない。そのため、人がやって来るとか関係する時に、どういう理由でやって来るのかという視点が一番重大であって、あまり人で変にターゲティングをしない方がいい。具体的に一体どういう場面なのか、理由でやって来るのかというところの深掘りが極めて重要。
- 富山のような、ある種風光明媚な土地で、とにかくご飯が美味しい所であれば、バケーションリトリートで世界中から人が集まってくる。東アジア圏の人はみんなやって来る、暑い南アジアの人もやって来る、ポリネシアやミクロネシアの人もやって来る、たまには雪も見たいねと言ってやって来るぐらいの土地になって初めて多分意味があるという意味で、バケーションリトリート系の話を、全世界を視野に入れるのが一つ。もう一つは、居て気持ちいい空間が多い所なので、知的生産でやって来る場所であるべき。ある種のワーケーションみたいな話が結構重要ではないか。
- その視点で考えた時に、何が大事になるかというと、少なくとも三つ。非常にインスピレーションに美しい、行ってはっとするぐらいグッとくる何かがあるというのがまず一つ重要。それがないとリトリート、心の洗濯にならないので、ものすごく重大。二つ目は、そこに行くと何か面白いことが起きるという面白感。単なる観光ではないため、色々な出会いがあったり、何か出てきたり、何かが始まるというのが重要ではないか。三つめは隙間。異質な人が来て面白がる文化を作り上げないといけない。なんだかわからない面白い人たちが世界中からやって来てくれるように僕には思えないので、入ってきやすい空間をいっぱい作って、ステイする居心地のいい場所をいっぱい作るというのは非常に重要。
- 主要な駅の前でも15㎡ぐらいしかない、マンションの中でも最小規模ぐらいのホテルしかないような所がいっぱいあって、そもそも疎空間に来たのにゆったりと泊まる所もない。そんな所で仕事はできないというのでは話にならない。そのような視点で見た時に、空間作りを全面的に変える必要があって、ステイする場所も、隙間も面白さも美しさの話も、今までとは全く違うタイプの空間作りをしていくことがおそらく非常に重要。

- ・なぜ来るのかの場面、オケージョンベネフィットみたいなものを徹底的によく考えて、そこに適したものは一体何だろうと考えることを強く訴えたい。

【藻谷委員】

- ・安宅さんがものすごく重要なことをおっしゃったのは、人の属性よりも場面のターゲティングが重要、どういう人がというよりもどういう場面で、何しに、どういう動機で行くかということでない、マーケティングとしてはいけないということ。
- ・日本の少子化はどれくらい深刻か。1975年に1,000万人赤ちゃんがいた日本で、去年の元旦何人だったか。4分の3か5分の3か7分の3かというクイズを出すと、みんな意外にまだ間違える。7分の3というのはなかなか深刻で、半減どころか半減以下。ネットに出ている議論やマスコミもそうだが、これを理解して報道している人がほとんどいない。すでに7分の3になったことが理解できていないために、定住人口を増やそうと言う人が出てくるわけだが、なかなか増えない。
- ・そこで関係人口になるわけだが、関係人口に対する大幅な期待、県はこう思っていないと思うが、一般の人が聞いたらこう思う。もはや定住人口減少は不可避であり、需要減少は交流人口増加で補完すると。交流人口というお客さんに来てもらおう、世界からも来るし、ホタルイカも売れる、でも取る人がいない、ホタルイカを加工する人もいない。客は来るけど、ホテルで働く人がいない。さあどうしよう、どこから関係人口が湧いてきて、手の回らないところをやってくれないかな、技能労働者みたいなことを関係人口に期待するみたいな、これが大幅な期待というもので、こういうことを期待して言っているのではないということを、あらかじめ皆さんお分かりだと思ふ。
- ・今の話の何が深刻かという、前回、東京、神奈川、埼玉、千葉という首都圏4都圏と、富山と石川、福井という北陸3県を比較したが、いまだに世の中の一般の人が大好きな総人口、定住人口で言うと、首都圏は増えていて、そして北陸は減っている。まさに栄える都会と減る田舎という価値観になっている。前回、これがいかに間違っているかということを説明したが、まず、その人口の中でも、44歳以下で、高校生から出産あるいは一生懸命働く徹夜が可能な年齢の人だけを取り出すと、もう首都圏も激しく減っている。北陸はもちろんもっと減っているが、総人口が増えているからといって、44歳以下がどんどん減っているところに未来があるか。都会が生き残って田舎が減びると思っている時点で、20世紀的な発想としか言いようがない。

- ・さらに困ったことが、その次を担うべき赤ちゃん、0歳から4歳がえらいペースで減少していて、これは正直、地方と都会の違いもない。少し石川県が良くないが、どこも凄まじい勢いで減っているのです、3、40年後にはとんでもないことになるということがもう確定している。
- ・こうなった理由は、若者を吸い込んで子供を減らす東京ブラックホールが機能しているから。今東京ブラックホールに若い人を半世紀間放置したおかげで、定住人口の取り合いは勝者なきゲーム。知事もおっしゃっていたが、前回も説明したとおり、海外も同じことになり始めていて、アジア全体ですごい勢いで人口が減っていく状況になっている。関係人口も1人の定住人口が5人10人の関係人口になれるからしばらくは取り合いができるが、いずれ限界が来る。関係人口になんかなるかという人もいっぱいいる。
- ・数はどうでもいいと言う人もいるが、実体的に言うと、みんなが手いっぱいになる前につばをつけとくのは大事で、だから数の取り組みは実は大事。その上で、質に注目しなくてはいけない。一般論として数はどうでもいいという議論があるが、今とりあえず最初なので、富山県に関心持ってもらうことは非常に重要。高い質の関係人口を活かすには、これは安宅さんがおっしゃっていたことだが、地域側の活用努力を相当やらないといけない。いかに活用するかという努力が重要。
- ・定住人口減少は、今後半世紀は止められず、その後どうなるかという、私は減るところまで減ったら、増える場所では増え始めると思っているが、その議論はしない。とりあえず半世紀は止められないが、減少の悪循環をこの時点で壊しておくことは重要。この世にある核爆弾はなかなか壊せないが新しい核爆弾工場は壊そうといった悪循環を壊すことは可能だということ。
- ・問題は、やはり定住人口が減っているのが困る。どこかで止めないと。なぜ減るのか。若者が流出するということと、子育て欲求を自制している人がいるから。この二番目は少子化と言うが、産みたくない人や産めない人に産めではなくて、本当は欲しいがやめておくという人がいっぱいいるところが改善できる点。これを子育て欲求の自制と言っている。若者はまさに県がその定住人口戦略で目指しているところ。若者の流入流出をトントンにし、出生率を上げるということ。なぜ若者が流出して、子育て欲求を自制する人が出てくるのか。青い鳥病が蔓延しているから。青い鳥病は私が作った言葉。富山に住む私たちは不幸せだ、東京に住むあの人たちは幸せ、これが青い鳥病。よくあることだが、行ってみると幸せではないのだが、とりあえず出ようor人生諦めようとなってし

まう。出ようと思うと若者は流出する。富山なんて住んでいるから、不幸せだからもう諦めようと思うと、やはり子育て欲求を自制する。欲求が全員にあるとは言わないが、ある人がいっぱいいるわけなので、ある人が自制してしまうということ。東京に住んでいる人も実は子育て欲求を自制しまくっている。東京の人は青い鳥病にならず、東京に住んでいるからには幸せなんだと思い込んで、私たちはとても幸せで、タワマンに住んでいるから子育てを諦めようという謎の考えを持っている。これは狂っている、しょうがないことだが。

- なぜこんなに青い鳥病が蔓延したのかというと、地元卑下の伝統と、もう一つ。これは安宅さんも常々おっしゃっていたことだが、域内同調圧力は不愉快だということ。こんな所にいてもしょうがないというのと、いるとああしろ、こうしろ、これするな、すごく不愉快なので嫌だと思っている。いつも言っているが、富山にしていると不愉快かもしれないが、東京に行って会社に入ると、会社の中における同調圧力というのはこんなものではない。ラーメン屋で働いてバイトをやっているだけでもめちゃくちゃ同調圧力にさらされる。だから東京に行くと、自由なわけでは全くないが、家では自由だからそれに憧れると。
- これをどうしたらいいかということだが、この地元卑下を、外部目線を獲得して、そんなに見下したものではないどころか、すごいじゃん、いいところあるじゃんとまず理解しないといけないのだが、自分で思う人はいないわけで。自分で鏡見て俺美人とかいうのはおかしいわけで。他の人から褒められないと無理。だから外部目線を獲得しないとイケない。そして、富山の同調圧力。消防団入らないとイケない、いい学校行かないとイケない。よそから見るとよくわからない。どうでもいいじゃんという、圧力がないよそから来た人と連携・協働することによって、その圧力を脱することができる。
- そして、自己効力感、これが大事なこと。自分たちでもなんとかできるというこの自己効力感を回復することが、青い鳥病を防ぐ。富山に住んでいる人の自己効力感というのは実はすごく大きなテーマ。よその関係人口だったらできるが、住んでいる我々は我慢しなくてはイケないではなくて、自分たちでなんとかできるということ。自力だけでは無理なので、人の力を借りながら。
- 地元卑下、同調圧力を壊すのが関係人口。富山県が書いていることには、世界の中から富山を選んだ人で、いきなり同調圧力から相対的に自由であってということだが、世界の中から富山を選んだ人というのは、当然外部目線で富山を評価している。その評価が

行動を通じて見える化されるというのがすごく大きなポイント。どこかで富山すごいぞとこっそり黙って言っているけど全く気が付かないが、関係人口はやって来て行動してくれるので、例えば新湊の橋の所から喜んで立山連峰を見て口を開けている外国人の団体がいたら、そうかこれはやはりいい景色なのかと初めて見える化するという感じ。関係人口が来てくれることによって見える化される。そうでなければネットの噂に過ぎない。見える化が重要。

- ・同調圧力から自由というのは、住人ではないからこそ圧力無視のリスクを取れる。その典型例が私。うまく連携・協働すると内部変革の助けになる。そして、関係人口の一番いいところは助っ人であるということ。関係人口はボスではなく応援者なので、ボスが勝手にやって来て勝手に変革して去っていかれると、セルフリスペクトが上がらない。やはり応援を得て成果を出すと、10人の自己効力感が回復する。やっているのは定住者なので。これが関係人口のすごく重要なポイント。10人の自己効力感が回復しなくてはいけない。
- ・「関係人口の社会学」という本がある。田中輝美さんという若い女の人を書いた本で、彼女は島根県立大学の今准教授だと思うが、元島根県民で、東京の大学へ行った後に帰ってきて、山陰中央新報、地元マスコミの記者をやって、その後やめて、ネットが未発達時代からフリーランスの地元記者、ジャーナリストをやっている、その後に地元大学に通い始めて論文を書いたらそれが認められて准教授になったという人。彼女が日本で初めて関係人口の社会学を学術的に書いた。いろいろないことが書いてあるが、島根県は最もうまくこれを活用した。特に海士町などの事例を見て、学問的に解析すると4類型ある。バーチャル移動型。来ていないが、富山の物産展には必ず行くし買うという人はいっぱいいる。それから来訪型。私のこと。たまに呼ぶと来る、呼ばなくても来る。そして、二地域居住型。もう一つは、よそに住んでいるが、買ってくれる、応援してくれる、でもしょっちゅうは来ない。来てくれると岩瀬に食べに来る、しまいにはこっちに家も借りている、これが風の人型と言って、来て何年か住んでまたいなくなる人。この四つ以外に定住者がいる。だから、例えばUIターンしてずっと住むのであれば定住人口になる。いずれ定住人口になってくれればいいが、この風の人型は、せっかく住んでいたのにいなくなるため何こいつということになるが、たまに来る人に比べると何年か住んでいるところがポイント。あくまでも定住人口の方が大事だが、何年か住むことで、この風の人型が実は大事だということを事例から田中さんは指摘している。

- ・インパクト大なのがこの風の人型。例えば出向者、赴任者。転勤で富山に何年か住んでいた人。あるいは、学生。富山大学のいいところは、地元の人がちゃんと行っていて、かつ従来から地元の就職率が高いところ。でも、国立大学なんてよそからいっぱい来るから、そのまま住みつく、あるいはその後、富山からいく人もみんな成績いいので東京へ行ったりするが、こういう人は実は風の人型。
- ・これを一番うまく使っているのは東京。東京は風の人を支えている街。私は1.5年以内ぐらいに東京を出ていくが、40年住んでいたが僕も風の人ということ。東京は風の人によって支えられて、うまくやっている。風の人を適当に使って最後は面倒見ない、東京は。島根県がやったことは、本腰を入れて何かするときに、例えば海士町の島前高校の魅力化をやるときに、何人かの人間を数年間も家族ごと住まわせて、住んでくれる人を使って改善した。ただ、一生住んでくれとは言えないので、彼らはその後出ていって、東京に行ったり札幌に行ったりしているが、来る人だけがやるよりは住んでやるのが実は重要。ただ、一生住んで定住人口になると逆に同調圧力内に置かれてしまうので、あまりワークしなくなる。完全に住んでしまう。だから、うまいこと両方使う必要がある。
- ・富山大学は、すでに75%がよその人だからこれ以上増やせない。中高生を3、4年だけこちらに住まわすとか、まさに隠岐の島がやったことだが、こういうのも風の人を活用としてすごく重要で、この風の人がいずれ二地域居住に戻ってきたり、しょっちゅうやって来たりするという事に繋がる。
- ・そういう類型があるのは分かったが、本当の意味で彼らはなぜ来るのかというのが、安宅さんが先におっしゃっていたように、どういう場面でどういう動機で何しに来るのかといったところを詰めないと、こういう人が来たらいいよねと言っているだけでは何の解決にもならない。これが重要だということをぜひ理解してもらいたい。
- ・日本の都道府県別可住地人口密度は、東京が1万人弱、大阪がその3分の2で7,000人弱、そして富山が600人弱と東京の15分の1。日本人というのは、なぜか人口密度が高い所に行かないといけない。そちらの関係人口になろうとみんな足繫く東京に通うという謎の行動をとる。例えば、東京の銀座に飯食いに行くぞと、俺たちに言わせると、あんな混んだ所に行きたくないわけで、本当に金があったら夕飯だけ岩瀬に食べに来たり、井波に食いに行って、好き好きな所でゆとりをもって食って帰りたいと思っている。外国人さんもそう思う。
- ・世界の領域国家で、都市国家を除くと、一番人口密度が高いのはバングラデシュと韓国

で、その次が実は日本。東京は、極端な密集で住居費が高く、過密のストレスでどうやっても出生率は下がり、地震、水害があると被災者の数は地方よりはるかに多くなるという宿命を持っている。それで、農林地がないので非常に生活が大変。

- 世界の常識ではこの数百人というのは中密度であり、適密。過疎ではない。日本は3番目に人口密度が高い領域国家。4番目がインドだが、このインドと富山がほぼ同等で、ヨーロッパで一番人口密度の高いオランダと東南アジアで一番高いベトナムが富山とほぼ同レベル。つまり、富山を過疎だと言っている人はインドは過疎だと言っているのと同じで、考え方を改めるべき。はるかその下にドイツとかイギリスとかインドネシアとかイタリアとかフランス、中国がある。富山はオランダと同じような状況で、ドイツ、スイスよりはかなり高い。これから確かに人口は減るが、富山が半減して、ようやくドイツ、イギリスぐらいで、恐れることはない。その上で、これぐらいの密度がちょうどいいというか、なんでもあって便利だねと、そういう人たちをターゲティングしなくてはいけない。
- 世の中というのは、エネルギーによって住み方が変わってきた。農業が始まったので、農村というものができる。それまで村はなかった。縄文人はバラバラに住んでいた。祭りの時だけ数軒、10軒ぐらい集まって来る、ストーンサークルに。あとはバラバラに住む。なぜか。村を作る程の生産がないから。稲作が始まって農村ができる。そして化石燃料が手に入るようになってから都市を支えることができたので都会ができる。ところが、その都会でやっている頭脳労働と称するものがITでできるようになったので、集まって都会にいる必要はない。天災対策でもエネルギー対策でも生産面でも、中密度の所に散らばって、適度に農地や産地が一緒にある所でゆったりと暮らした方が明らかに有利。地方都市内外で部分受給する方が有利。こういう風に時代が変わってきていて、富山がこの計画を立てているのは、ちょうどその数百年単位の時代の変わり目。
- 別に都会のオフィスはいらない。時間空間の豊かな富山で暮らし、随時都会や世界で遊ぶ人生の方が楽しいと思う人をターゲットにすべき。ただ、その時に、過密の東京かさもなければ同調圧力が強い富山か、どちらかを選べというのはやめてほしい。
- 自己効力感の得られる富山を作らなくてはいけない。そして、関係人口の持つ他者目線を10人分共有する機会をもっと増やさなければならない。ただ来てもらうだけではなく、彼らからどう見えているのかということをもっと教育とかに導入して、知る機会を増やさなければならない。同調圧力バスターとして関係人口を活用する。

【土肥委員】（当日ご欠席だったため、事前にいただいたご意見を事務局代読）

- ・今回の会議が欠席となってしまうため、資料を拝見して感じたことを意見申し上げる。
関係人口の定義が明示されており、且つそれを元とした現状の関係人口数が明確になっていることは、今後関係人口1,000万人を目指す上でも、より精度の高い計画を立てる指標となったと感じている。ただ一方で、そもそも論として関係人口を増やすことが人口減少緩和に、プラスの影響を与えるのかについては、曖昧な印象を感じた。例えば、富山に本社を構える弊社では、全国の子育て世代約100名に仕事を業務委託しており、これも関係人口のひとつかもしれないと思うものの、だからと言って富山の人口減少緩和に繋がるかと言われるとあまりしっくりこない印象がある。富山に訪れるきっかけにはなるかもしれないが。人口減少で想定される課題を、関係人口により解決していくことはもちろん可能だと感じるが、人口減少自体を緩和させるためのアクションや魅力の発信、多拠点生活も含めた移住促進についても同時に議論が必要と感じている。

【藻谷委員】

- ・定住人口減少の悪循環の根源である地元卑下および域内同調圧力を関係人口を活かして、打破する、緩和することができる。
- ・その100人の、富山に住んではいないが働いてくださる方はバーチャル移動型。よそで富山の寿司を買ってくれる人と同じ。富山で働いて、そういう人たちも来訪するかもしれない。まさにその通り。来訪するかもしれないし、物産店にも行くかもしれない。そういう裾野の上に二地域居住になる人とか風の人みたいに数年住む人を増やすことができるのとよりいい。バーチャルにただ住んでいるだけでも、富山で働いてるのよ、私東京にいるんだけどというだけで、富山すごいという人も増えるわけで、何かしらの効果はある。
- ・その人たちが富山についてどう思っているかという情報が富山の住民に伝わるようなやり方をする事で、富山の中にいる人が外部目線を獲得し、これもやっているじゃないかという自己の効力感が高まる。

【藤井副座長】

- ・先ほどの藻谷先生の資料で、ある意味、需要は交流人口が作る。県のイベントに参加したりして。ただ、労働力を含む供給側がないので、そこを関係人口で補うということなのが冒頭にあったと思うが、そういう意味では、その県内企業にバーチャルで働いていただいているというのは、まさに関係人口が労働供給を補っているパターンだろう。
- ・県内物品購入者とか県内外のイベントに参加してくださる方々は、いろいろな考え方があると思うが、多くの場合は単に消費している人たちなので、その人が年に何回か来たとしても、どちらかという与交流人口に整理されることも多いのかなと思う。単に消費しによく来てくれたり、よく観光に来てくれたりする交流人口と、本当に富山県内で課題を解決してくれたり、足りない供給力を供給してくれるという意味での関係人口は、少し整理した方がいいだろう。

【朝比奈委員】

- ・前提として思うのは、富山県は別にそう言っているわけではないが、基本としてあまり東京から引っぺがすとか、東京一極けしからんという議論に持っていけない方がいいのかなということベースとして思っている。というのも、先般、新增田レポートが発表されて、人口戦略会議が開かれて、たまたま私も少し招待されて行っていた。レポートは非常に色々な報道もされていたので、ご覧になっている方も多いと思うが、新たにブラックホール型という形で東京を名付けたりしている。今の藻谷さんのプレゼンテーションにもあったように、東京にも今や大して余裕がないので、生産性の低いことをやっても仕方がないと思うし、消滅可能性都市自身は5割から4割少しに減ったりということもあるので、そこをベースに議論して、集中するのがいけないというよりは、富山そのものの魅力をしっかり高めていくんだというところが、哲学、理念的なところだが、大前提にある。
- ・その上で三点ほど申し上げたい。私は行政官でもあったので、少しプラクティカルなところから一つ入ると、今、割と国交省が二地域居住というところを国会で動かす方向にきている。内輪でなんとなく聞いていると、例えば二地域居住とか、そのうちリニアが東京ー大阪67分とか、色々そういう時代になると三地域居住とか色々可能な時代になっていくと思うのだが、住民税をどうしていくのかとかそういう議論は色々あると思うが、その議論の中で聞いていると、10個か11個、モデル都市みたいなものを選ぶようだ。もうすでに富山県ももしかしたら検討されたりしているかもしれないが、そうい

う国の動きともタイアップしつつ、深掘りして議論して、どういう関係人口づくりができるのかということを考えていくのもいい。

- 二つ目に、先ほどこれも安宅さんや藻谷さんの議論の中にもあったように、なかなか交流人口を増やしても供給サイドが増やせないというところで、一番多分深刻なのは、これだけ経済安保とか、あるいは米中のデカップリングの中で、またものすごい勢いの円安という中で、外形的にはかなり製造業とかを引っ張っていくチャンス。北陸地域は、私がアドバイザーをさせていただいている魚津とかもそうだし、隣になるが新潟の妙高とかそういう所は、かなり元々半導体とかの拠点で割とその世界に精通されている方はなぜ今更、熊本とかあっちに持っていくのかと言っている。要するに、水とかいろいろなインフラはかなり北陸地域が整っていて、実際パナソニックの工場とか昔あったわけで、そういったものを一部活用しようという動きもある。何が言いたいかというと、かなり円安で、チャンスだが、労働供給制約がある中で、かなり省人化したものづくりということも結構できてきているので、製造業とかものづくりというところを一つ掲げて、現代型の供給制約はあるけれども、どういう風に関係人口を作っていくかということ、富山という場所の特性を考えると、考えてもいいのかなと思う。今、少し米中関係が冷え込んで、少し単純貿易以外のところ、高付加価値な製造業については少しデカップリングが進みつつあるが、これが未来永劫とは言えないだろうし、米中航路で考えると、上海からアメリカ西海岸まで結べば太平洋側ではなくて日本海側をバンバンいろいろな行き来するわけで、その途中にあるという意味でも非常にチャンス。申し上げたいのは、そういう現代的製造業のことを意識した関係人口づくりみたいなところ。私は広島経済財政会議の委員とか他もやらせていただいているが、例えば広島はものすごいベンチャー拠点を作ろうと頑張られた。湯崎知事自身が上場までしたベンチャー企業の社長もされていたので、思いはあるが、やはり日本製鉄が撤退しますと言うと、3,000人とか4,000人人口が減ってしまう。富山もかなりスタートアップに力を入れられているのはよく存じていて、それはそれで非常に大事だと思うが、やはりその人口インパクトというところを考えると、なかなかスタートアップだといきなり大人数というわけにはいかない。今申し上げたような、少しものづくりとか製造業ということも意識した政策も考えてもいいのかなと思う。
- 最後、三点目は、結論から言うと、すでに先ほどのプレゼンにも少しあったが、面白い人、ユニークな人、人に注目して、人をもう少しプロデュースしてプレイアップすると

いうところが、実は関係人口づくりにすごく大事。私も今、内閣官房の全世代型社会保障実現会議の有識者とかもやらせていただく中で議論して思うのは、今、例えば政府でいうと、異次元の少子化対策ということで、皆さんどう異次元と感じているかいろいろ議論があるところだが、予算的にはかなり、3兆円台とか、これからも増やしていってということで、政府としてはかなり異次元にしたという認識。ただ、財政支出をしたから子供が増えるのかと。これは自然増、関係増、両方込めてだが、正直、主計局の主計官とか子ども家庭庁の審議官とか内閣官房と議論していると、彼ら自身も懐疑的というか、お金はかなり出して、支えるのは大事なのだが、それでいろいろ増えるかという、もう一押しいるよねと。そのもう一押しが意識醸成で、さらに言えば、人生とか子育てとか生きるとかそういうことは少しベタだが、やはりそういうことにちゃんと向き合わずに、日本の社会とか地域もきてしまったので、とにかく勉強して立身出世していい中学とかいい高校いい大学に行っていい会社に入りなさいみたいなところだけにいってしまっ、あまり人生とか子育てとかそういうことを語ったり議論しなかった。少しアナログだが、車座的にそういうことをいろいろ議論する中で、人生とか子育てとか社会とか地域とか、そういうことが実は大事なのではないかというところに来ている。そういう議論になっていくと、必ず地域に非常に面白い長老的な方というか、すごく示唆に富んだ方がいらっしゃる。私も安宅さんに大変お世話になって、例えば沼田市のアドバイザーをやっているが、利根沼田という地域に安宅さんチームに来ていただいたりした時に、非常に横目に見て感じたのは、やはり人と人の化学変化というか反応というか、もちろん風光明媚な所でもあるが、やはりその自然の中で培われたいろいろな知恵とかそういったものが一種化学变化的に、安宅さんチームの、日本を代表するような方の知的好奇心とかいろいろなところを含めて満たされている部分があると感じている。やはり面白い人がいると、人が来る。海士町もそうだし、この前、ジソウラボの島田さんも沼田に行っていたりした関係もあって、沼田の人と繋がったりしたが、やはり人と人が繋がり合って、また人が交流するという、そこが関係人口を考える上で非常に大事な要素。そういったユニークな人、面白い人というところをちゃんとプレイアップして、そして繋げていく。ここが大事。

【藤井副座長】

- ・スタートアップの人口インパクトは限定的なので、大きな新産業というのは私も同意な

のだが、その時に、やはり人口の供給の制約があるということで関係人口づくりということだったのだが、おっしゃっているのは、これは熊本のように新しい産業を誘致してきて、そこでの関係人口というのは、まさに先ほどのプレゼンであったような、出向者とか都心から赴任してくる人とか、あるいは海外からその工場が来るときに一緒に何年間か限定的についてくる人とか、そういう方々をイメージされているということか。

【朝比奈委員】

- ・おおむね藤井副座長がおっしゃっていることだと思うが、やはり全国見渡して、その半導体の企業を誘致しようというのは、なんとなくブームになっている感じはあるが、もう少し製造業というところに広げて、富山の特性とか経済安保とか円安とかを考えると、積極的に引っ張ってきてもいいと思う。
- ・これは新産業ということに限らず、一時アジアにいろいろ展開したような日本企業でもいいかもしれない。ただ、その時に、かつては安い労働力というところだけを売りに、各世界も日本も誘致合戦をやっていたわけだが、そうではなくて、もう少し省人化とかDXとか、あるいはウェルビーイングとか暮らしとか。今かなり日本に外国人が大挙して働きに来ているが、やはり日本は飯がうまいからとか、アニメが好きすぎて日本で働きたいからというエンジニアとか結構いたりする。そういうところも含めて、全体に打ち出しつつ引っ張っていく。それは割と人口インパクトには、もしかすると、ただ単にスタートアップということだけよりはさらに意味があるのではないか。

【藤井副座長】

- ・私も全く同感で、特に新産業戦略プロジェクトチームはこの成長戦略会議の中にあるが、まさに富山県のこれまでの強みだとか地域的特性を活かして、新しいサプライチェーンを国際的に構築していかなくはない中で、SDGs自体の新しい国際標準戦略に応じたグリーンアルミとかカーボニュートラルポートとか医薬品産業とか、そういうところを強くしていこうという議論をいろいろなところで、多分これまでも県庁内であると思うので、そことこの会議がうまく繋がれたらと思う。

【中村委員】

- ・先ほどの藻谷委員の、青い鳥病の自己効力感の回復というところは、まさに富山で進め

ているウェルビーイングがすごく役立つのではないと思っていて、ウェルビーイング戦略というのを継続して、県内に在住の方にも対外的な方にも継続していくべき。

- 関係人口の質の問題を私もすごく感じていて、藻谷先生のお話であったバーチャル移動の人とか名産品を買うとか外で買うという人は、富山と関わっている思いは全くないのではないかなと思う。ここを増やすことで数を取るよりも、そうではなくて、4番目に出てきた風の人型というか、濃い人、質が高い人を増やしていくというのが、やはり施策として優先されるべき。
- その中でターゲットとなってくるのはやはり20代から30代の人たち。私は、今たまたま、年間に100人ぐらいその辺の人を採用しようということで、年間500人以上面接をしているが、非常に彼ら彼女らの認識が変わってきていることを実感している。青い鳥病で東京にいるが、家賃も高くなって、家を買おうと思っても1億円を超えてしまうので、もう無理ということをだんだんみんな気づき始めている。保育所の待機児童は、東京はだいぶ少なくはなってきたが、入れてもすごく狭いところでお散歩も先生と手を繋いで半径500mぐらいの所しか行けずに、全く緑や自然と触れ合えないみたいなところで、すごく窮屈な子育てなんだということを結構なお母さんたちが気付いている。そういうことも友達から聞きながら、この状況ではちょっと子育てできないよねということを、すごく20代の女性たちは言い始めている。
- 今何が起きているかという、その20代、30代の方で今これから子供を産む、子育てを今まさにやっているという方々は、一つは、ご主人は東京に置いておいて、自分は田舎の実家に帰るという人が非常に多くなっている。もう一つは、どこでもいいから田舎に行って、家賃の安い所でリモートで働けないかというリモートニーズが若い人ほどすごく高い。
- 私は、富山県、すごくチャンスと思っている。自然もすごくたくさんあって、子供を育てるのにバッチリ。東京だとすごくいろいろな添加物とかがあるが、水も綺麗というのをもっともっと富山県もアピールしたらいい。子育てするのに本当に絶好な場所。このことをみんな知らないということと、もう一つは、例えば子育てしていくなら住まいをある程度補助するとか、住まいを提供するというのを具体的にやるとか、あとみんな気にしているのは教育面。東京から離れたら遅れるのではないかなというのがあるが、そうではないとしっかりアピールしていくことができ、そのロールモデル、先ほど皆さんもおっしゃっていたこの人面白いからみたいな人がバリバリのキャリアウーマンだ

けど、富山に移住してうまく子育てもやっているみたいなモデルを作っていって、富山に住んですごく良かったとか子育てしやすいということを言うことができると、一番欲しい子育ての人とか赤ちゃんとかを富山県がゲットしていけるのではないかな。

【藤井副座長】

- ・東京の子育て環境が、本当にどんどん上を目指して、自分で自分の首を絞めていくような感覚が私も子供を育てながらある。

【高木委員】

- ・結構アイデアっぽい話になるが、関係人口は定住者だけでなく、ただ交流を増やせばいいわけでもなく、その間をちゃんと増やしていくという認識をまず置いていると思うが、やはり福利が利く関係人口の方がいい。
- ・日本全体に言えるかもしれないが、地政学的に、日本がアジアにおけるスイスみたいなポジショニングになるのではないかなと思っている。
- ・半導体の話もそうだが、極めて今、世界的な地政学的な流れの中で、多分日本がある意味安全な場所になっていると思う。多分近いポジショニングは、世界で言うとニュージーランドとかだと思うが、その中で富山はウェルビーイングを立ててやっていく。富山含め北陸は日本における北欧みたいなポジションになればいいと思っている。自然が豊かな日本、その中でも富山はすごい。能登半島地震はあったが、富山に関しては極めて大きい地震が少なく、かつ、関西と東京へのアクセスもどんどん、北陸新幹線がさらに開通すれば非常に良くなるといった時に、ボーディングスクールとか、東京の方からの教育遠征の場所でもあればいいと思う。世界の、アジアの富裕層がボーディングスクールで富山に送り込むみたいなこともある気がする。岩手とかにも今、中国資本のボーディングスクールができていると思うが、そういうものをもっと積極的に作っていく。やはりその子たちにとってもそうだし、親にとってもすごい関係性になっていくと思う。
- ・ウェルビーイングというイメージと富山の持っている自然の豊かさ。今インバウンドでは高山が非常に人気だが、富山はそれに近い文化圏の、多分古き良き日本というようなものに近いイメージがあるのではないかなと思っていて、そういうことを戦略的に狙っていく関係人口の打ち手を決めて、製造業も大事だと思うが、良質な関係人口を作り出していく打ち手みたいなもの自体を決めていくのも結構大事かなと思った。

【前田副座長】

- ・僕は富山の基幹産業である製菓事業をしながら立山で村を作り、ある種の観光業目線で観光事業をしている。
- ・先日、日経フォーラムの観光業のフォーラムに登壇してきた。そこでボストンコンサルティングの富山先生、日本の観光業におけるトップのコンサルティングの方がおっしゃっていた。2019年に4.8兆円のインバウンドだった観光業は、2023年5.3兆円になり、政府目標で2030年には6,000万人の観光と15兆円のインバウンド事業。すでに国内の観光業は22兆円あるので、2030年には40兆円ぐらいの大きいビジネスになる。製菓産業は日本全体で11兆円、自動車は12兆円であり、非常に大きなマーケット。
- ・富山の新成長産業として、観光業はちゃんと磨けばできると思っている。それは当然、交流人口の間口は大きくなる。僕は富山先生の言葉がすごく日経フォーラムで刺さった。観光業というもの、これまでの昭和、平成の旅行業とかホテル業とかそういうものではなくて、地方における新しい総合産業戦略として観光業を捉え直す時に、やはり安宅さんがおっしゃったワーケーションリトリートはいい感じの大人が来るのだが、こういう所で子育てしたいなとか、サマースクールとかでいいからこういう所に来たいなというところに、富山は刺さると思っている。そういうところに対して手厚く、行政も含め、金融機関も含め、あと地域プレイヤーを育てる環境も含め育てていく、そういう環境を整えていくことが必要。
- ・質の高いコンテンツをやはり作らないと結局人は来ない。最終的に、質の高いコンテンツを作っていくのは地元の人間であるべき。当然、外部の目線、外部の人が入ってくことも大事なのだが、最終的にやはりシビックプライドを持つのは自分たちで作れるかどうかということだと思うので、そういう人たちを育てる、もしくは、最初の立ち上げの時はお金もかかるしネットワークも少ない彼らに対して相当依怙臆屢して、やはり若い世代、これからの20代、30代を育てていける、いわゆるスタートアップというよりは、この地域をリードしていく若い人たちを育てていく官民一体となったエコシステムというのをもう少し富山は考えて、そこで圧倒的になれるような戦略はありなのではないか。

【高木委員】

- ・インバウンドで本当に高山が非常に人気で、もうびっくりするぐらい。多分京都の次ぐらいの人気になっていると思う。多分金沢とかよりも全然人が来ていると思う。
- ・高山は、多分海の幸は富山のものを食べていると思うし、多分鉄道でいうと高山線で、空港も多分富山の空港を使っている、道路も富山が一番と、これから福井も通るみたいだが。実は結構観光地としてのポテンシャルはあるのかなと思う。むしろ高いものを取り込んだ一個の経済圏みたいに捉えて、アクセスが決していい場所ではないと思うので、長期滞在とかも含めて、サマースクールとかそういう教育も含めて、長くいたくなる良質なエリアというイメージを作り出すことはちゃんとやればできると思う。裾野の広い産業だし、それやっていくためには、まずはそういうことを今やり始めている前田さんとかもそうだし、関係人口を作り出すことにトライしているプレイヤーを、行政だったり、地銀だったり、そういうインフラを支えているような企業がもっと支援したり応援していく。多分食とかはかなり強くなってきていると思うが、ホテルとかはまだ弱かったりすると思うし、そういうところにもっと重心をかけていくというのは、すごく未来があると思うし、実際プレイヤーは結構ポツポツ個人の力で出てきてはいると思うので、まだエコシステムにはなっていないのかなという気がして、そこを伸ばしていくというのは、さっきの教育とかも含めて、もしかしたら医療的なツーリズムやヘルスケアのツーリズム、リトリートも含めて結構ポテンシャルあるのではないかな。
- ・富山のウェルビーイングと薬と富山の文脈とかを含めて、あとこの北陸というエリアのポテンシャルも含めて、何か回収できるのかなという気がする。

【齋藤委員】

- ・富山大学のコンセプトは、私が学長になった時に「面白い大学」にした。新しく再選された時には、「みんなで作ろう面白い大学」、みんなでというのを入れた。これはやはり学生さん、それから教員、職員にとって、みんなで作り上げていくことが大事だと思ったから。
- ・京都に1年半ぐらい住んでいたが、毎月何かイベントをしている。昔は、京都は少し閉鎖的で地元の人しかお祭りに参加できなかったが、今はたくさんの外国人とかが参加して、一緒にお祭りを楽しんでいる。それが毎月ある、冬の寒い時に。やはりもう少し官民が協力する形でいろいろなイベントを行って、特に面白いことをどんどん発信していくということが重要ではないかな。

- ・特に、富山大学は学生の75%が県外から来ている。彼らに富山県に残ってもらおうと思うと、そういった地元のイベントなんかにはどんどん参加して富山県を好きになってもらうことが重要でしょう。いろいろな大学の関係者と話していると、富山県、富山大学はいいよねといつも言われる。それは地元には産業があるから。産業があるからどんどん就職先として、富山県に、産業界に送り込めるよねと言われている。これは富山県の得ている大きなメリット。だから、いろいろな形で他から来た人にどんどんイベントに参加してもらい、それから地元の人にも参加してもらい、富山を好きになって、それから関係人口という形で他県から来てもらい、そこにまた一緒になって参加してもらうことで、関係人口は増えるし、その中でより富山に定住してくれるような人も増えてくるのではないかな。
- ・二つ目は、人口減少のこと。日本で一番出生率が高いのは沖縄。沖縄はかなり離婚率が高い。でも女性はとても元気で、働きながら子育てをしている。そして、ちゃんと社会はそういうことを受け入れている。資料をみると、富山県の強みは、女性の就業率が高い、正社員率が高い、県民の一人当たりの所得が高いこと。ここにもっと強みとして置いてもらいたいのは、子育てしやすいこと。待機児童は0だし、小中の教育レベルは非常に高いと全国的に評価されている。それから、子育てをしやすい、いろいろな形での共働きもできるということ。こういう策をもっと積極的にPRすると、シングルマザーに来てもらえるかもしれない。その中でちゃんと子供の教育もできるし、非正規で非常に生活が苦しいということではなく、ちゃんと正職員に就いて安定した収入のもとに子育てを安心してできる、そういう街を目指すと結構定住してくる方が多いと思う。
- ・私は医師なので製薬会社に勤めている方に知り合いが多いのだが、製薬会社の社員は結構全国的に飛び回っている。でも、富山へ来た時に、奥さんと子供さんがすごく富山を気に入って、旦那さんだけ単身赴任で全国を回っている方が結構いる。どうしてか聞いたら、子供が富山県が好き、それから教育レベルが非常に高いからここだと安心できるということを皆さん言っていた。そこが富山県の大きな魅力だと思うので、そちらの魅力もどんどん活かして、関係人口だけでなく定住者も増やすような戦略もあるだろう。
- ・要するに、一つは面白い街にしようということ。行政だけ頑張ってもだめなので、住民も入ってもらって、いろいろな形でみんなで面白い街にする。それから二つ目は、や

はり子育てがしやすいということを全面的に打ち出して、そうした形で関係人口を増やしていく、もしくは定住者を増やしていというのも一つの手ではないか。

【中村委員】

- ・実はウェルビーイングPTの少子化対策・子育て支援専門部会でも話があったのだが、子育てというのはすごく富山県が有利で、どんどんやったらいいと思うが、多分網羅的にやるとなかなか予算も取れないので、例えば、分かりやすく、富山県はシングルマザーを受け入れる県と言ってシングルマザーにとって天国な県みたいにしてしまうとか、他がまだやっていない尖った政策をやっていくというのはすごく大事なのではないか。

【齋藤委員】

- ・私もその通りだと思う。シングルマザーを受け入れるというのは言いづらいかと思ったが、離婚率は3割ぐらいでたくさんいるので、もう一般的なこと。ただ、彼女らは決して差別されるのではなく、彼女らはしっかりと生きていける、そういう生活の場があって、子育てもちゃんとできますよ、そういう県ですよということはぜひアピールしてもらいたい。それともう一つ、沖縄に行って私が実感するのは、シングルマザーになってもまたすぐ再婚される。やはり女性はすごく元気。やはりどんどん元気になってもらいたい。異なるパートナーでちゃんと子育てをされている。
- ・日本は儒教思想が強くて、結婚しないと子供ができないという形。このような国は日本と韓国だけ。フランスが成功したのは、非嫡出子でも、結婚しなくて子供が生まれてもちゃんと国が責任持って子育てをするということをちゃんと宣言したため。そういう形で子供が増えた。だから、古い考えをやめて、どんどん新しい人でみんながハッピーになろう、みんなで面白い富山を作っていくという雰囲気があって、全国からいろいろな、女性だけではなくて男性の方もやって来てもらうといい。

【高木委員】

- ・ポジショニングが大事。比較も当然大事だが、最後はこういう場所だよね、こういうエリアだよねという、いろいろな相対比較がある中で、自然環境だけで言うと結構似ている所もたくさんある中で、富山のポジショニングを明確にしないと埋もれる。ポジショニングははっきりさせたい。ポジショニングを明確にするために一番有効な打ち手、絞り

込んだ手を打っていき、認知を明確にしていくことで、自分たちが狙いたい層の関係人口をちゃんと作り出していく。そのあたりを議論できると認識が揃いやすいだろう。

【藤井副座長】

- ・いろいろなイベントに参加したり、地域の様々な活動に参加したりということに関して、私の経験だと、多くの場合、外の人、風の人とか旅の人が来て何か面白いことを起こそうと思ったり、地域の若者が何か新しいことを始めようとするときに、一番ネックになるのは、実は行政ではなくて地元の様々な非公式な集団なのではないか。区役所とか区長さんは、どんどんイノベーションやってくださいと言っているが、実は地元の町会とか自治会が、お祭りをやるにしても、いろいろな組があつたりとか、そういう人たちも完全に年功序列になってしまっていて、町で新しいことやろうとしても俺たちに話が通っていないじゃないかということがある。あとは、新しい公園を作ろうとしても、どの緑地事業者を使っているとか、どの不動産事業者と話すためにどこに話しを通さなくてはならないとか、そういう本当に見えないネットワークとか、見えない団体とか非公式な行政的な機能を果たしている人たちというのが完全に古いオールドジャパンになってしまっていて、むしろ行政は新しいこと大歓迎というのをよくみる。
- ・行政がそういう人たち、町会とかに指導して行って、指導って言い方はよくないが、地元を仕切っているおじいちゃんとかお兄ちゃんとか、外に目を開いてもらうことはできないか。これは東京も多分一緒。東京でお祭りやろうとしても、やはり地元で仕切っている人たちがいて、外の人がぽっと出でお祭りに入れるわけではなく、いろいろなルールがあると言われたりする。実は行政よりも地元の非公式ネットワークの方が保守的なのではないか。

【齋藤学長】

- ・今度、新田知事とトップ会談する時に私の方から提言しようと思っているが、やはり行政、県の方が中心になって、大学生と高校生がどんどんイベントに参加できるようなポータルサイトを作ってもらいたいと思います。県が保証している、いろいろなイベントを若者に紹介してもらって、参加したい人は参加しようという形を作っていただきたい。そこを通じてどんどん参加者が出て、参加したら面白かったよというのはどんどんSNSなどで広がって行って、僕も私もという形でどんどん参加すると思います。やはり参加

者が多くなればなるほどイベントは活気が出てくるし、参加者同士での交流が出てくるので非常にメリットがある。そういう形のものをどんどん作っていくことが大きなことで、地元の協力を得た上でやっていくと地域が盛り上がるだろう。

【高木委員】

- ・面白い人、面白いというイメージが富山に全くなくて、僕の中の認知は真逆。たまに東京の友達を連れていくが、連れて行くたびに新平がここから生まれ育ったのはバグだよねとか普通に言われる。
- ・この前も射水市でいろいろな重鎮の方が集まる会で、僕が無邪気に突っ込みまくるみたいな会をやったが、正直難しいなと思っていて、極めて閉鎖的だと思う。面白がるイメージが全然わからない。だから、局所的に外の人が来たりとか、海外の人がいる部分で、射水だったらパキスタン人とか、人、子供を送り込んだりしているようなエリアが局所的に生まれて、一部の、外の人血も流れているような場所を作っていくとか何かやっていかないと、あまり変わらない。面白いというのが、大阪とかに行くと全然空気が違う。面白いの種類が違うかもしれないが、そういうプレイをしやすくなる環境を作りたかいかないと、簡単ではない。

【藻谷委員】

- ・私がふるさとの山口について、例えば高木さんとか安宅さんみたいな立場で喋ると、もっと厳しいことを言う。やはり、山口県内に住んでいた時の同調圧力に対する不愉快感は一生涯抜けない。いろいろな失敗を重ねてきているということに対する不快感が抜けないので、もし山口について語ると、やはり肯定的に語りきらないところがある。現実には、非常に景色が綺麗。立山連峰は素晴らしいが、瀬戸内海、日本海も綺麗。あと飯もうまいし、富山もそうだが、ハイエンドな世界のトップクラスにも訴求できるようなことをやっている人が一部いて、しかも山口の場合は結構女性がやっている。ユニクロも東京の会社になりきらずに、山口に本社を置いて世界展開をしているので、そういう会社がちゃんと出てくるところはいいと思うが、やはりふるさとに関して言うと、多分死ぬまで、最後まで他の人ほど褒めないと思う。それは出身者であり、Uターン・Iターン者の限界だと思う。関係人口というのは、そういう変な同調圧力に対する不快感がないところから入ってきているので、より素直に地元を褒めることができるので、これは役

割分担と言うか、出身で悪いところを本当によくわかっている、ちょっと認めてやろうという人のトーンだけでなく、よそから来て全然深いことはわからないが、そのどこがいけないの、素晴らしい県じゃないのという人とタッグを組むことが大事。

- ・ここ半年ぐらいふらふら富山に来て思うのが、前に比べると人を連れて来ようという雰囲気急速になってきている。県内のここで飯を食べば、ここに泊まれば素晴らしいという場所が実は増えてきていると思う。外の人間から見て世界一級のものが急速に増えてきているのは、やはり民官の努力の成果ではないか。他の県より結構いけているぞということ。変化のスピードが非常にポジティブで早いと思っている。この調子で頑張るとロジカーブが上がりだすのではないかと期待している。この戦略をぜひ活かして、前向きな関係人口をより質の高い方へ持っていく。まずは裾野を大きくして、ただ顔だけの人でもいいから増やしておいて、その上で、風の人を増やす。さっきも言ったが、高校生の留学受け入れを島根県みたいに手広くやったらどうか。お受験大好きな人にも素晴らしく訴求するだろう。そうすると、高校時代にただで、都会とかに就職したが、なぜか知らないが出身地ではないのに戻ってきたという、都会、富山、そしてまた都会に戻って、また富山に戻ってといういわゆるSターンというのが出てくる。富山大学にすでにいらっしゃると思うが、そういう人をぜひ増やしてはどうか。

【安宅委員】

- ・オケージョ的な議論になっていると思うが、本当にこれが重大。日本の生産年齢人口推移は、95年ぐらいをピークにこういう風に落ちてきた。しかし、いろいろな市場は伸びてきた。私に関わった市場の一つに飲料市場があるが、このぐらいからやっている。この時2兆円ぐらい、今は5兆円ぐらいある。次々と全く今までにないカテゴリーが出てきているように見える。お茶や缶コーヒーみたいなものは、80年代後半に急激に伸びた。お茶も初めはウーロン茶だったが、緑茶とかがどんどん出てきた。今までにターゲットされていない市場というか、オケージョンを開拓してきたということ。最初は暑い時のただの飲み物だった。僕が子供の頃はコカコーラのベンディングマシーンで8オンス瓶をみんなで飲んでいて、1本60円で。富山もそうだった。ほとんど市場はこれだけだった。この後、朝一とか仕事とかの市場が生まれて、これだけで1兆円の市場が生まれた。これは、ほぼ缶コーヒーが中心にとった。そして、お茶や水がものすごく巨大な、口寂しい食事時の市場をとった。私が仕事を始めた90年代初頭は手入れのお茶がほとんど

どだったのとれないと言われていたが、とれた。こんな水のうまい国で市場になるわけがないと言われたが、そんなことはない。水だけで今1兆円の市場。疲れた時にもとるということで、今、緑茶とかレッドブルとか全部この市場。元々の市場だけだったら、人が減る中で市場なんか伸びるわけがない。だから、違う場面をとることによって市場は成長してきた。市場を作るということにおいて場面の視点が決定的に重要。

- 人が減る局面において市場を作るのは、絶対に場面。一択と言ってもいい。この40年ぐらいのマーケティングが本当に場面の開拓であって、オケージョンを作れた市場、作れた人だけが市場を作ってきた。これは、あらゆる市場で起きてきたことであって、今からの関係人口云々のフォーカスは、どういう用途で来てもらう、どういう場面で来てもらうということに集中しないと絶対踏み外す。なので、教育でもいいし、僕が前から言っているノマド的な場面でもいいし、それがワーケーションとかの話に繋がっているのだが、どういう理由でそこに来るのかというところを徹底的に掘り込んで、そこに向けて徹底的に場面を作り込む、空間を作り込むということをやらないと、おそらく増えない。結局、人口が減ることが本当の問題ではなく、経済が回らないことが問題なので、経済が回るように続ければいいだけ、生産性を上げていけばいいということ。ここをどういう風に考えるかということ徹底的に考えることを強く訴えたい。
- 人口が減るのはマクロ的なもので、我々が豊かになった結果。インドだって特殊出生率が6から2まで落ちた、この40年で。これも世界的に起きている。豊かになるとこうなる。女性は働くようになるし、子供も死ななくなる、産まなくなる。マクロ的に落ちてしまうので、正しく捉えて正しくやる。
- もちろん産みやすくするのが大事だが、シングルの人はみんな来いというのもすごくいい。人間の健康を一番害すのは、孤独であることはほぼ確実。過去何十年いろいろな論文とかが出てきて、結局人間は孤独で死ぬ。富山は孤独にならなくて、大人も子供も老人だろうが若かろうが孤独にならない、面白い人が混ざり合える場所になると全然変わるだろう。ここでいきなり新平さんとか僕みたいな人間がたくさんいる場所を目指すのもいいと思うが、我々2人が出ていったように、居づらい。僕らがいてもいいと思える空間を派手に作るというのをぜひ4、5か所は作ってほしい。それに加えて、そういう仲間たちが来てもいいなと思える場にしていけるというのが本当に重要。その時点で空間も作る、人の混ざり合う場所も作る、居場所も作るということ。
- 単に出張で1泊して帰るだけの鳥小屋みたいな宿は廃止、富山では30㎡以下の宿は禁止、

もう作らない。土地は山のようにあるので、最低30㎡から始める、シングルでも30㎡というぐらいでやっていかないとノマドは来ない。僕は、離島とかに2泊15万とかで泊まりに行く。机もなかったりして仕事できなくて、町長に激怒りして帰ってきたが、そんな所で仕事はできない。そういう所では絶対ノマド的な人口増はない。そういう意味で、我々はとがってそちら側に行くということを、張り込むなら張り込んでやっていったらどうか。

- ・仕事を東京でやるのが嫌な人はみんな来る。うちの業界なんてもう8割方家でやっている。未だにエンジニアはほとんど家にいる。インターネット業界なんて別にどこだっていい。この間、文部科学大臣賞をLINEヤフー研究所のある人間がとったが、その人は今、福井の山奥にいる。国際学会に毎月行きながら、福井の山奥で無農薬農法をしながら最先端情報科学の研究をやっている。こういう人間がやって来ればそれで済む。

【藤井副座長】

- ・場の開拓理由を探るという大きな宿題をいただいたような気がするので、ぜひ次回に向けて議論できればと思う。

【中尾座長】

- ・大変活発なご意見をいただいた。単純な考えかもしれないが、人口が減り続けていくということを与件として、あとは関係人口を増やしていこうということであるが、やはり定住人口を減らさないようにしていくことは当然お考えになっていかねばならない。AI革命（私は革命と思っている。）の後の産業構造は大きく変わっていくであろう。
- ・富山には多くの多様な産業集積がある。これらを組み合わせて新しいものを生み出していく、それに対する支援なども必要だと思う。繰り返すが、減少していく人口のグラフ、それを与件としてはならない。
- ・今年、子供たちのロボット世界大会を富山でやる予定であり、いま準備を進めている。なぜ富山でやるかという、今まで、毎年、コンピューター・システム（ゲーム、学び、仕事など）について子供たちのコンクールをやってきた。富山の子どもたちのITレベルは高い。世界大会の代表になると思う。半導体工場の誘致をはじめ新しい産業の芽を育てていく県としたい。

【新田知事】

- ・座長、副座長、また特別委員の安宅さんはじめ委員の皆様、本当にありがとうございます。今日も本当に突き抜けた議論、そして前向きな、建設的な、生産的な意見交換になった。
- ・私も50年前に地元卑下をして、そして青い鳥病、真っ青になって富山を出て行った者の一人。青い鳥病からは冷めて富山に戻ってきたが、地元卑下はなかなか根強かった。9年前、新幹線が富山まできて、久しぶりに会う親戚やら久しぶりに会う友達やらがどんどん富山に来るようになって、当然飯を奢るのだが、みんなうまいうまいと言う。私は信じられなくて、こんなの普通だよと言うのだが、本当、皆さん口を揃えて、おいしいおいしいと、こんないい所ないと言うので、ようやく私も地元卑下から抜け出して、富山ってうまいんだということが確信できるようになって、そして今や、これも成長戦略会議の一つの落とし子だが、「寿司といえば、富山」という、おいしいものはたくさんあるが、寿司に特化してブランディングをして、10年後には日本の9割の人が「寿司といえば、富山」ということを認知するような作戦を始めたりもしている。地元の卑下ではなくて、地元プライドをどんどん伸ばしていきたい。
- ・改めて この成長戦略のビジョンである「幸せ人口1000万〜ウェルビーイング先進地域、富山〜」を目指すというのは、本当によくできたビジョンだと今日の議論を通じて改めて思った。これを信じて、ブレずに、また皆さんのご意見もいただきながらやっていきたい。
- ・中尾座長が心配された定住人口のこと、これは県庁部局横断でやっている富山県人口未来構想本部の方でしっかりと議論して、この成長戦略会議とキャッチボールをしながらやっていきたいと思っている。
- ・最後に、富山“Re-Design”ラボという事業を紹介したい。これは主に大都市圏でキャリアを積んでスキルを磨いてこられた方と富山県の企業をマッチングして、首都圏でスキルを磨いてこられた人材に半年間来てもらって、富山県企業のいろいろな課題解決にあたってもらおう。半年前提なので、まさに風の人前提。半年間その企業の中で働いてもらう。一ひねりしてあるのが、その半年間、企業の課題解決にあたるとともに、富山大学で学べる、リカレント教育を受けられるというところ。これは富山大学のご好意でそういうこともできている。そして、半年経って風の人はどうなるかというと、実は結構そのまま定住している。一ひねり、二ひねりしたこのような事業もやっている。

- ・富山に来てください、移住してくださいというよりも、半年住んでみて、帰ったらと言ったら、逆に定住されるという、そんな例も本当にたくさん出ている。このようなことを総がかりで進めていきたい。